横浜市立 平安小学校　　学校評価報告書　　（平成28～30年度）

平成28年度

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	①子どもが自分の思いや考えを伝え合い、よりよい解決方法を考えていくことのよさや楽しさを味わいながら、意欲的に取り組むことができる課題設定、授業展開を工夫する。②問題解決に必要な既習事項を整理し、明確にした授業づくりをするとともに、既習事項を活用し自分の考えを伝え合う授業場面を工夫する。③朝の帯時間の15分間（スキルタイム）の充実をはかり、問題解決に必要な基礎学力の定着をめざす。	①②重点研を通し、必然性・切実感のある課題設定や授業展開の工夫に取り組んだ。身に付ける力を明確にし、資料の提示や発問の仕方等を工夫すること、具体的な体験を通して考える場面を設けることが、意欲的な学習態度と充実した伝え合いにつながると明らかになった。③スキルタイムについては、今後もさらなる充実を図り、基礎学力の定着を図っていく必要がある。	B
豊かな心	①道徳教育と道徳の時間との関連を図り、年1回の授業公開を行い、家庭との共通理解を図る。②地域や保護者の協力をいただき、体験的な学習の充実を図るとともに、地域の一員であることに気付かせていく。③なかよし学年での交流を充実させ、異学年同士のつながりを築くようにする。	①道徳の授業を年1回保護者参加型の授業を行い、感想をいただきながら共通理解を図ることができた。②本校の特色である体験的な学習を、地域や保護者の協力をいただき行うことができた。その学習を通して、豊かな心を育てることができた。③なかよし学年との交流の充実により、異学年とのかかわりをもつことで、相手を思いやる心を育てることができた。	B
健やかな体	①「早寝、早起き、朝ごはん」に焦点を当てて自分の生活を振り返り、規則正しい生活習慣が身に付けられるようにはたらきかける。②学校給食を「生きた教材」として活用し、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、実践できるようにする。③「長縄集会」や「マラソン週間」などの集会活動や体育的行事を行い、継続して体力の向上に努める。④学校保健委員会では、クラスごとに目標を設定し、心身の健康への関心を高める。	①朝会で生活目標の振り返りをして、自分自身の生活を見直し、規則正しい生活習慣について考えるきっかけとなった。②6年間の食育のまとめとして行う6年生のバイキング給食では、給食を材にして、食品を選択する能力を身に付けることやマナーを守って楽しく食べること調理員に感謝して食べることを学習できた。③児童主体の集会や体育的行事を行い、年間を通して体力の向上に努めることができた。④学校保健委員会で、心の健康を取り上げ、「ふわふわ言葉」を意識した、児童同士の望ましい関わり合いが増えた。	B
人権教育	①児童一人ひとりの自己肯定感を高めるためにも「わかる授業・楽しい授業」づくりを行っていく。②子どもの社会的スキル横浜プログラムの指導プログラムを教育課程の中に位置づけ意図的計画的に子どもの社会的スキルの系統的な育成を図る。③各学年でテーマを決め、体験的な福祉教育を取り入れていく。	①児童一人ひとりが自己肯定感、自己有用感を高めることができるように楽しい授業づくりとともに、学校保健委員会で「こころ大切大作戦」をテーマに優しい声かけや友達同士の認め合いをすることを意識させてきた。②YPの実施と活用し、学級づくりを行った。③各学年、それぞれのテーマで福祉教育を取り入れることができた。	A
地域連携	①個や集団の子ども達の心に自尊感情や自己有用感が自然に湧き起こるように、なかよし学年による交流や委員会活動などの児童会活動に取り組む。 ②子ども達が職員・地域・保護者と連携・協力し、意欲的にかつ主体的にもちつき大会や地域行事等に参加できるように、実行委員会を設置する。	①月に一度のなかよし学級による交流の場を起点とし、遠足や宿泊体験学習等の送迎や手紙などのやりとりを通して、互いのよさを実感しあうことができた。また、委員会活動では、ふれあい掲示板の設置や地域ケアプラザとの交流など、昨年度よりも計画的な取り組みの中から、様々な人の生き方に目を向けることができた。 ②もちつき大会を5年生の社会科の米作りの単元の一環として位置付け、実行委員会を中心として、地域、PTA、職員と連携し、主体的な学習に取り組むことができた。また、その他の各行事についても、明確な目標に向かって、実行委員会を中心にした取り組みを展開することができた。	A
特別支援教育	①教室内の環境を整えたり、指導方法等を工夫したりして安心できる環境づくりをしていく。 ②学習に応じて、TTや少人数などを取り入れた学習をしていく。 ③週に数時間程度、刺激のない環境で、個別に学習指導を行っていく。（取り出し指導） ④対象児童においては特別支援カードやスクリーニングシートを作成していく。	①発達障害等をもつ児童への理解を深めるための研修を行い、日々の指導や学級づくりに生かすことができた。②③④特別支援カード等を作成しながら個のアセスメントを行うことで、ニーズに合った支援や、学習形態の工夫をすることができ、一定の学習成果を上げることができた。	B
人材育成・組織運営	①10年次の教員を中心に5・3・2年・初任の教員を構成メンバーとするメンターチームを充実させ、月に1回の研修を継続的に行う。②主幹教諭を中心にミドルリーダーが各指導部に所属し、全体を見通して学校運営をしていくような組織運営をしていく。③情報機器を活用した情報の共有・保存・活用を実施し、事務の簡単化、効率化を図る。	①経験の浅い教員が、児童理解や授業技術の向上を目指して、10年次の教員を中心として、月1回のメンター研修を行った。 ②主幹教諭やミドルリーダーを中心に、全職員が各指導部に所属し、指導部が学校や学年の行事を計画し、運営した。 ③ICTを活用することにより、全職員がリアルタイムで校内の情報を共有し事務効率をあげることができた。	A

ブロック内相互評価後の気付き	・小中の教員が互いの授業を見合うことを通して、市場地区の児童・生徒の実態を把握することができ、日々の授業に生かすことができた。その際には、9年間で目指したい子ども像をより明確に意識した上での授業計画の立案、そしてその検討が積極的に執り行なわれる環境が整っていた。 ・6年生が小中交流日に授業参観や生徒会活動の見学、また部活動の見学をすることができたのは、有意義な場になった。また、市場中の教員の出前授業を通して、6年が中学校の美術科の授業を体験することができたのは、大変有意義だった。
学校関係者評価	・異学年交流、ふれあい活動、地域の方を交えての活動の場が多くあることは大変有意義であると評価されている。とくに、地域の方々との交流の場が活発にあることで、規範意識の芽生えとその育成、そして自他を大切にする意識を醸成していくことができている。 ・家庭学習の習慣化、携帯電話やインターネットの使用について、子どもや保護者に呼びかけ、指導しているが、引き続き継続していく必要がある。

学校経営中期取組目標振り返り	・重点研究を通して課題設定や授業展開の工夫に取り組み、学びに向かう力の育成のための授業力向上に努め、誰もがわかる楽しい授業実践が着実に進んでいる。 ・なかよし学年・学級の活発な交流や委員会活動による「こころ大切大作戦」「ふわふわ言葉の励ましあい」、まちの人・ものを活用した体験的活動を1から6年生まで系統的・継続的に取り入れ、より自己有用感や地域の一員としてまちを愛する心の育成が図られていた。次年度は、さらにまちの中の自分たちを意識した活動を発展推進させたい。

平成29年度

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	①子どもの実態を丁寧に見取り、各教科において、育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりをする。②自分の思いや考えを伝え合い、主体的に取り組むことができる課題設定、授業展開を工夫する。③朝の帯時間の15分間（スキルタイム）の充実をはかり、問題解決に必要な基礎学力の定着をめざす。	①学年研を通して、児童の実態をいろいろな角度から見取るようにした。授業をする際に単元で身に付けたい力を分析し、明確にしから、学年全体で学習内容を共有するように努めた。②重点研を通し、授業展開の中で提示の仕方に合わせた資料の収集を行ったり、具体的な体験を次の学習につなげる方法を探ったこれらの、工夫することで学習に主体的に取り組む姿につながることが分かった。③育成すべき能力に合わせた基礎学力の定着を目指し、スキルの内容を改善していく方法を探った。	B
豊かな心	①道徳の教科化に向け、内容項目の確認と授業展開についての研修を行っていく。保護者への授業公開も行い、共通理解を図る。②学校行事との関連を見直し、より充実した体験学習となるようにしていく。地域や保護者への協力もいただいていく。③より充実したなかよし学年の交流となるよう、目的をはっきりさせ、異学年同士のつながりを築くようにする。	①道徳科の授業展開の仕方と評価についての研修を行い、後期より授業記録をもとに評価をおこなうことができた。保護者への授業公開も行った。②ふれあい活動を中心に本校の特色ある行事を通して、体験的な活動を行うことができた。地域の方や保護者からの協力もいただくことができた。③仲良し集会を中心になかよし学年との交流を行うことができた。	B
健やかな体	①体育科の学習において、児童が運動特性にふれる楽しさを十分に味わい、自分のめあてをもち、主体的に学習活動に取り組める指導計画を工夫する。②児童主体の集会活動や体育的行事を行い、年間を通して継続して体力の向上に努める。③学校給食を「生きた教材」として活用し、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、実践できるようにする。④学校保健委員会では、心の健康と共に規則正しい生活が身につけられるよう自分の生活を見つめ直す。	①児童一人ひとりが自分の力に合ったためあてをもち、友達と教え合いながら運動を楽しむことができた。②「長縄集会」や「マラソン週間」など児童主体の集会や体育的行事を行い、年間を通して体力の向上に努めることができた。③6年間の食育のまとめとして行う6年生のバイキング給食では、給食を材にして、食品を選択する能力を身に付けることやマナーを守って楽しく食べること調理員に感謝して食べることを学習できた。④学校保健委員会で心の健康のために、良い食事・睡眠が必要ということがわかり、「苦手なものを一口でも食べる」「クラスで運動する日を設ける」などの活動を行った。活動を通して、生活課題を見つめ直すことができた。	A
人権教育	①児童一人ひとりの自己肯定感、自己有用感を高めるための教師のかかわり方や友達同士のかかわり方についてよりよい方法を探っていく。 ②横浜プログラムの活用研修を行い、よりYP等を生かすことのできるようにしていく。③各学年の福祉テーマを再確認し、それぞれの学年での福祉教育の方向性を確立していく。	①自己肯定感を高めるために、楽しい授業、分かる授業づくりを目指した教材研究を進めてきている。②横浜プログラム・YPの研修を行い、学級の実態把握し、指導に活用していけるようにした。③各学年ごと、児童の実態にあった福祉教育を行ってきている。	A
地域連携	①なかよし学年・学級による交流をより密にしていくことで、人間関係がより深まる場が生まれるように、活動計画を主体的に立てていく。また、委員会活動では、自治的・主体的に活動に取り組むことを大切にしながら、各委員会の視点から見えてくる課題を常時活動や各行事を通して解決していくように、話し合いの場を設定する。 ②子ども達が職員・地域・保護者と連携・協力し、意欲的にかつ主体的に取り組んでいくことができるように、実行委員会を設置し、自治的・主体的に取り組み、互いの人間関係の深まりや協働する喜びや良さを感得することを目指す。	①なかよし学年・学級による交流の場を月に一度以上定期的に設けることで、子どもたち自身の交流活動が常時的なものになっていくことができた。また、委員会活動では、自分たちが学校でできることをよく考えて、教員の助言のもと、話し合いに取り組み、実際に課題解決へと実践することができた。②各学年が各行事に向けて実行委員会を設置し、実際に自治的に話し合いを進め、自分たちでできることを積極的に決めて取り組むことができた。もちつき大会では、5年生の子ども達が主体となって、米作りの様子を伝えるための工夫をして取り組むことができました。	A
特別支援教育	昨年度までの取組を継続しつつ、さらに、 ①専門機関やSCと教職員の連携を深める。 ②職員会議や学年で、配慮が必要な児童について情報を共有する時間を確保する。 ③配慮が必要な児童に関する情報を6年間しっかり引き継げるように、データで管理・共有を行う。	①東部地域療育センターと連携し、児童の実態に応じた対応の仕方や環境整備について助言をしていただき、学級経営に生かすことができた。SCとの情報交換を通して、児童理解を深めることができた。②毎月の職員会議後や学年主任会を通して情報を共有することができた。③過去年度の情報を一覧で見られるようにし、学級編成や引継ぎに生かすことができた。	A
いじめへの対応	①児童一人ひとりの心の動きや状態をとらえるために、YPアセスメントを年2回行う。また、アセスメントシートの活用方法やカウンセリングスキルに関する研修を行う。 ②児童の状況についての記録を作成し、校長をリーダーに、担任や学年主任、養護教諭や児童支援専任等から成るチームによる支援を進める。	①定期的にYPアセスメントや児童アンケートを行うことで、児童の視点から実態の把握をすることができた。また、アセスメントシートの活用方法に関する職員研修を行い、学級経営やいじめの早期発見に生かすことができた。 ②いじめが疑われる事案に関して、内容や対応について記録に残し、管理職や養護教諭、学年主任、専任と情報を共有し、チームによる支援を進めることができた。	A
人材育成・組織運営	①5年次以下の教員を構成メンバーとするメンターチームの研修に主幹教諭やミドルリーダーも積極的にかかわり、研修の内容を充実させ、継続的に実施する。 ②ミドルリーダーが各指導部に所属し、学校運営に積極的に参画し、リードできるようにする。各指導部に全職員が関わり、主体的に活動にかかわるようにする。 ③ICTを活用した情報共有による、事務の簡略化、効率化を図り、校内の組織が円滑にできるようにする。	①メンター研を定期的に実施し、学級経営や児童指導を中心に活発な意見交換をし、自身の活動の場に生かすことができた。各年次教員による研究授業実施の際は、関係の教員が指導案の構想を練る段階から関わり、丁寧な助言と支援を行うことができた。 ②多くの教員が重点研究や各委員会、職員会議などにおいて、的確な意見を発言し、学校をより良い方向に向けるために主体的に関わった。 ③仕事の効率化を向上するために、会議等でのペーパーレス化や時間活用の効率化、職場環境の改善を進めることができた。	A

ブロック内相互評価後の気付き	・年数回の交流を実施し、全体会と各教科・領域での部会を通して、ブロック目標、教育課程の共通理解を図ることができた。新学習指導要領移行に向けて、目指すべき児童像・生徒像を共通理解をすることができた。また、小中各々の研究授業を参観することで、子どもの実態を把握し、かつ実態に見合った指導方法を見出すなど、自身の授業方法を改善する有意義な場となった。 ・6年生の市体育大会に向けて、中学生の陸上部の生徒が丁寧に指導をしてくれたり、小中交流として、授業の様子や部活動の様子を参観したりすることができた場は、大変有意義であった。、
学校関係者評価	・確かな学力を身に着けられるような授業への取り組みとして、算数学習での少人数教室をはじめとする授業形態や、社会科学習の学習題材の工夫等により、児童が学習へ興味関心を持続してもてるようにするなど今後も研究を重ねていく。家庭学習の習慣作りの取り組みも、質が高められるように取り組みを進める。 ・地域と連携しての教育活動への取り組みについては、さまざまな学年が地域のいろいろな場所で活動させていただいている。地域に根差した地域の特色を生かした教育が続けられるように計画を立てていく。 ・児童の読書習慣については、今後も定着化ができるように、学校図書館の貸し出し環境を充実させていく努力を重ねていく。 ・児童自らがあいさつの大切さを感じられるように、新たな取り組みを考えていく必要があると考えている。委員会児童の活動を取り入れながらあいさつ運動を継続するとともに、来年度も粘り強く声掛けをしていく。

学校経営中期取組目標振り返り	・豊かな心の育成では、年間の行事や生活科、総合的な学習などで地域との積極的な交流を通し、まちの中の自分たちの良さに気づき自己有用感を高め他者との良い関わりがもてるようになってきている。 ・校内重点研究では、生活科、理科、社会、の3グループに分かれ、「自分の思いや考えをもち、伝え合う子どもの姿」に焦点かしてわかる授業、意欲的に取り組むことのできる授業作りをめざした。各教科での学びや気づきを共有化し、他教科への取り組みに生かす研究が進み、職員の授業力の向上に繋がった。 ・次年度は、市場中ブロックが併設型の一貫校となるため市場小学校の分校化も見据えながら、さらに小中連携の可能性の拡大をめざして、カリキュラム編成などにおける小小連携にも力を入れていきたい。

平成30年度

重点取組分野	具体的取組	自己評価結果	総括
確かな学力	①新学習指導要領を踏まえたカリキュラム編成に向けて、子どもの実態を丁寧に見取り、教科において育成すべき資質・能力を明確にした授業づくりをする。②自分の思いや考えをもち対話しながら、学びを深めることができる課題設定、授業展開を工夫する。③朝の帯時間の15分間（スキルタイム）の充実をはかり、問題解決に必要な基礎学力の定着をめざす。	①重点研を通し、各領域ごとに新学習指導要領に沿った授業展開のあり方を研究し、実践を重ねた。新指導要領に合わせた資料の収集を行ったり、授業をする際に単元で身につけたい力を分析したり、明確になったことを全員で共有した。②重点研、学年研を通して、自分の思いや考え、学びの深まりとは何かを明確にし、各学年の学習内容に照らし合わせて授業の改善に努めた。③今までの実践をもとに、基礎学力の定着を目指し、スキルの内容をさらに改善し、実践を積み重ねた。	B
豊かな心	①道徳の教科化に伴い、年間カリキュラムの作成や授業展開についての共通理解を図っていく。一斉道徳として保護者への授業参観を行う。②より充実した体験活動となるよう、目的を明確化していく。③なかよし活動の目的を明確にし、より充実した活動になるようにしていく。	①教科書をもとに授業を行うことを提示したり、各学年ごと内容項目配列表を作成した。来年度に向けて各学年で配列の見直しをするよう声かけしてきた。②各学年ごとの子どもの実態に合わせた体験活動を行い、目的を明確にしていくことで充実した活動ができた。③なかよし集会を中心にそれぞれの学年でふれあうことを通して、高学年が意識をもつことができた。	A
健やかな体	①体育科の学習において、児童が運動特性にふれる楽しさを十分に味わい、自分の力に合ったためあてをもち、主体的に運動に取り組むことにより、生涯にわたってスポーツに親しみ、心身共に健やかに過ごそうとする素地を育てる。②児童主体の集会活動や体育的行事を行い、年間を通して継続して体力の向上に努める。③学校給食を「生きた教材」として活用し、心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し、実践できるようにする。④学校保健委員会ではけがと病気の予防について取り上げ、自分の生活を振り返り健康で安全な生活について考える。	①自分の力に合ったためあてをもち、運動を楽しむことができた。また、振り返ることで、次時への見通しやより運動を楽しもうという思いをもつことができた。②「長縄集会」等の活動を通して、ワークシートを活用しながら児童の体力の向上に継続して取り組むことができた。③6年間の食育のまとめとして行った「バイキング給食」では、給食を材として食品を選択する能力や会食のマナーについて実践を通して学ぶことができた。④病気予防のため換気チェックを行い感染症の流行をとどめることができた。けがの予防について様々な課題に気づき、解決に向けて具体的な活動を提案することができた。	B
人権教育	①重点研究を中心に各教科のカリキュラムの作成に伴い、児童が興味・関心をもち、楽しくわかる授業展開の研究を深めていく。②横浜プログラム・YPを扱い、学級経営により活用ができるよう高めていく。③各学年の福祉授業の定着化のため、目的を明確にし、活動計画の作成をしていく。	①楽しい授業、わかる授業を行うことが子どもの自己肯定感を高めることができることを意識し、普段の授業を大切にしていくことを推進していった。②横浜プログラムの活用研修を行い、学級経営に役立てた。③各学年ごとに目標を定め、成長過程に合った福祉授業を行なった。	A
地域連携	①なかよし学年・学級による交流が定期的になったことを受けて、人間関係がより深まる場が生まれるように、活動計画をより常時的活動に主眼を置き、主体的に立てていく。また、委員会活動では、自治的・主体的に活動に取り組むことを大切にしながら、各委員会の視点から見えてくる課題を常時活動や各行事を通して解決していくように、話し合いの場を設定する。 ②子ども達が職員・地域・保護者と連携・協力し、意欲的にかつ主体的に取り組んでいくことができるように、実行委員会を設置し、自治的・主体的に取り組み、互いの人間関係の深まりや協働する喜びや良さを感得することを目指す。	①今年度も集会等の時間を活用してなかよし学年での交流の機会を定期的に設けた。継続した取り組みの中で、活動内容にも深まりが見られ主体的に関わろうとする児童の姿が多く見られるようになった。委員会活動の役割と活動の意味を考えて行動することができるようになってきた。 ②どの学年でも実行委員を中心に取り組むことで、児童が意欲をもって主体的に行動することができた。もちつき大会、さつまいも作り、グリーンカーテン、洗濯板体験など地域の方と職員が連携を図りながら、体験的な活動を多く取り入れることができた。	A
特別支援教育	①引き続き専門機関やSCと教職員の連携を深めながら、具体的な支援の手立てについてスキルアップを図っていく。 ②特別支援教室をより効果的に活用できるよう、児童の情報を共有したり、個別の支援計画を活用したりしながら適切な支援ができるようにする。 ③配慮が必要な児童に関する情報を6年間しっかり引き継げるように、データで管理・共有を行うとともに、必要に応じて保護者と一緒に特別支援計画を作成し、よりきめ細やかな児童支援に取り組んでいく。	①東部療育センターからの助言を生かし学級での児童対応や環境整備の仕方について学ぶことができた。いろいろな事例に応じたより良い対応方法についてSCから助言をいただき、支援につなげることができた。②個別の支援計画を作成することにより、特別支援教室担当職員間や担任との情報共有を効率的に、正確に、行うことができた。③児童情報を整理することで、漏れのない引継ぎができるようになってきた。保護者との面談を通して短期目標を共有した上で支援を進めることができた。	A
いじめへの対応	①引き続き年2回のYPアセスメントに加え、年2回の児童へのアンケートや児童との面談を通して、児童一人ひとりの心の動きや状態を把握し迅速に対応できるようにする。 ②児童の状況についての記録を作成するとともに、毎月行ういじめ防止対策委員会を有効に活用し、チームによる支援を進め、早期発見、早期対応に努める。	①定期的にY-PアセスメントやQ-Uアンケートを行い、児童の視点や児童相互のかかわりを把握して、一人一人の理解や学級づくりに生かすことができた。学年を中心に学校全体での児童理解に努め、迅速に対応することができた。②いじめ防止対策委員会での情報共有により、早期発見、早期対応、組織的な対応につなげて支援することができた。管理職、養護、専任、特別支援コーディネーターを中心に情報共有してより良い支援の方向性を決定して対応することができた。	A
人材育成・組織運営	①5年次以下の教員を構成メンバーとするメンターチームの研修に主幹教諭やミドルリーダーも積極的にかかわり、授業づくりを中心とした研修の内容を充実させ、継続的に実施する。授業研究に進んで関わるようにしていく。 ②様々な経験年数の教員が各指導部に所属し、主幹教諭の指導・監督のもと学校運営に積極的に参画し、主体的に活躍できるようにする。学校行事等に全職員が関わり、主体的に活動にかかわるようにする。 ③ICTを活用した情報共有による事務の簡略化、効率化を図り、校内の組織が円滑にできるようにすると共に、職員の働き方に対する考え方を共有し、長時間労働の見直しを進める。	①メンター研を定期的に実施し、研究授業を中心に主幹教諭や教科主任が指導案の構想を練る段階から関わり、丁寧な助言と指導を行った。アドバイスを受けながら活発に討議し各自の授業実践に生かすことができた。②多くの教員が重点研究や各委員会、職員会議などにおいて、的確な意見を発言し、学校をより良い方向に向けるために主体的に関わった。③仕事の効率化を図るために、会議等のペーパーレス化や時間活用の効率化、職場環境の改善を進めることができた。職員室業務アシスタントに印刷、配布物の整理等を依頼することにより、教職員の業務が軽減された。	A

ブロック内相互評価後の気付き	各校の学校教育目標の実現に向け、必要な資質・能力を共有した。年間3回行った合同研修では、各校から出された「育てたい資質・能力」を知・徳・体・公・開の視点で分析を行い、意見を出しあった。今年度の検討内容を元に次年度は小中一貫カリキュラムの編成に向けて、検討、研修を進めていく。 中学校教諭による小学校での英語授業を行った。中学校での学習へのスムーズな移行に繋がる取り組みとなった。一方で中学校教諭の日程調整の難しさや小学校教諭との打ち合わせの時間の確保など課題も見えてきているので、次年度もより良い実践に向けて検討を重ねていく。
学校関係者評価	・平安小スタンダードについて共通の指導ができていてよかった。・給食を通して、家では食べない食材も学校でバランスよく食事をとることができてよかった。・子どもの安全を考えた登校班の在り方について、地域、保護者、学校で話し合いながら改善していってほしい。・学校で挨拶できる児童は多いが、地域でも進んで挨拶をする児童を育てていくために、地域に親しむこと、地域に知っている人が多くいることが大切である。積極的に関わりをもつために、学校と家庭、地域がそれぞれできることを考え、実践できるように指導していきたい。

学校経営中期取組目標振り返り	・校内重点研究では、新学習指導要領のねらいを捉えなおしながら、授業を行った。各領域で育成する資質・能力や主体的・対話的な学びの実現のための指導の具体について共有し、新学習指導要領の理解や授業力の向上を図ることができた。 ・なかよし学年、委員会、クラブなどの交流や様々な行事を通して、相手の気持ちを考えた行動や発言を意識して生活し、互いの個性を認めながら、あたたかい気持ちで人と接することができるようになってきた。 ・まちの人との交流を意識した体験的な活動を6年間通して系統的・継続的に取り入れてきたことで、自分たちが暮らしているまち良さや支えてくれている人たちのことを知り、「わがまち」を愛する心を育むことができた。